

秋田大学 教育文化学部 情報誌

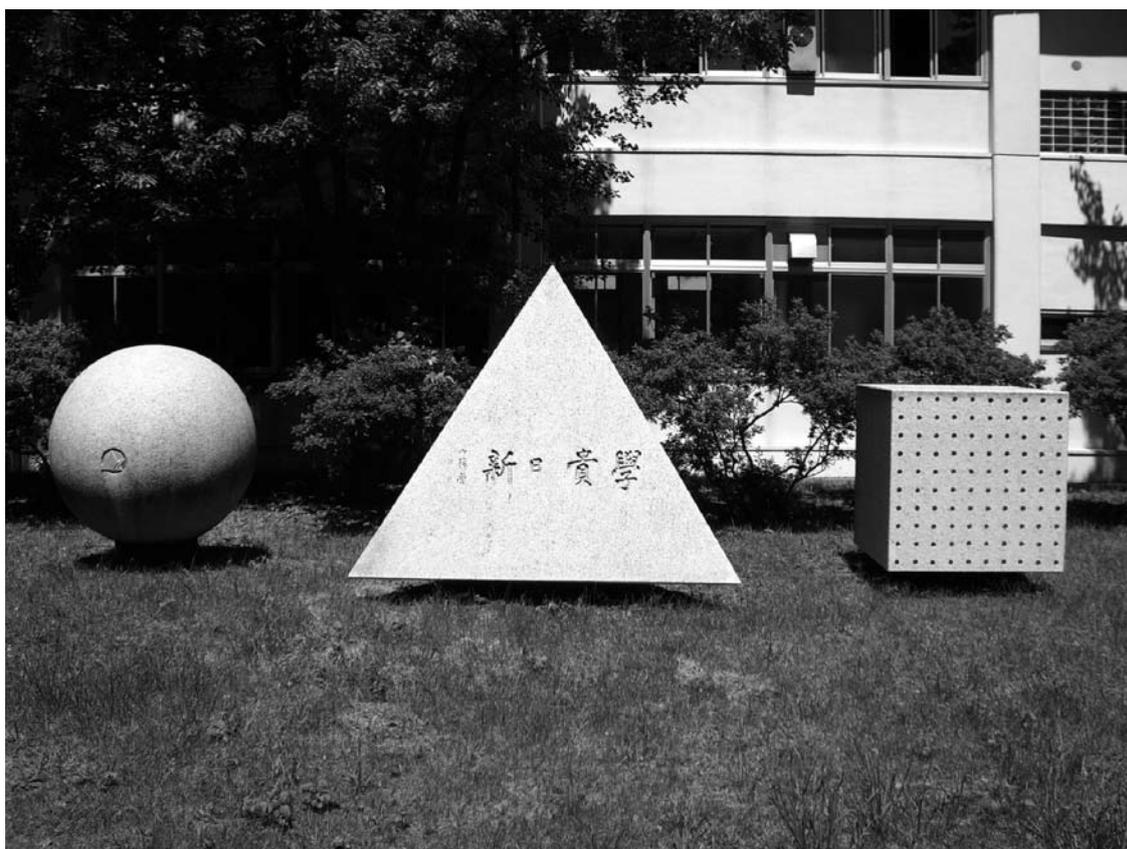
平成22年3月1日 創刊号

(仮題)

※情報誌の愛称を募集します。詳しくは12ページをご覧ください。

目 次

教育文化学部長挨拶	2
後援会長挨拶	3
就職情報室とともに（就職委員長）	4
就職内定状況	5
就職情報室インタビュー	6
秋田大学ゲーミングシミュレーション研究会／学校ボランティア体験談	7
秋田大学鍵盤の会／出前授業で相互に学ぶ	8
授業紹介…①「地理学実験Ⅲ」／授業紹介②「実地講師による郷土芸能の授業」	9
より高い保育の専門性をー幼稚園教諭＋保育士＋小学校教諭 教員著書紹介「秋田のこどもはなぜ学力が高い？」	10
トピックス	11
行事予定／愛称募集	12



旭水会100周年記念モニュメント（教育文化学部2号館脇）

モニュメントは、教育文化学部の同窓会組織である旭水会が昭和63年に設立100周年記念事業として、構内の一画を旭水苑として整備した際、設置されました。三角錐に刻まれている「學貴日新」とは、秋田師範学校（現：教育文化学部）を卒業した東洋史学者 内藤湖南の言葉で、「学問を深めるには新たな真理に向かう厳しい姿勢を日々堅持することが大切である」という意味を表しています。また、球体には旭水会のシンボルマークが刻まれています。

並んでいる球体・三角錐・立方体は全て同じ体積です。



教育文化学部長挨拶

教育文化学部長 池村 好道

教育文化学部後援会の皆様に本学部の様々な動きをお伝えするこの情報誌が、関係教職員の熱意により漸く創刊の運びとなりました。学部の将来をにらみ昨年の春に学部内に立ち上げました「広報・地域連携推進委員会」が多彩な広報活動の一環として企画したこの事業が、この度本格的に動き出したものであります。今まで後援会の皆様には、本学部生の入学料、授業料等を負担していただくとともに、学生の就職活動の支援を中心に多大の財政的援助をいただきながら、学部の現況をお知らせすることにおいて対応が充分であったとは、必ずしもいいきれませんでした。今後はこの情報誌発行を中心に、学部の最も重要なステークホルダーである後援会の皆様に情報を提供し、皆様のご理解を得ることに今まで以上に意を致してまいりたいと考えております。

さて、学部長として皆様にメッセージを発するのは、これまで新入生ガイダンス等、わずかな機会に限られてきましたので、ここではそれを補う意味で、また創刊号ということもあって、本学部の教育と研究について、1点ずつ手短かに紹介させていただきます。

まず、教育面についてです。ご存知のとおり、本学部は、明治6年設立の「伝習学校」以来の学校教員養成の伝統を継承しながら、時代の要請にも応えてきており、現在は学校教育、地域科学、国際言語文化、人間環境の四つの課程を擁すに至っていますが、このような幅広い人材養成にあってその質を保障するため、教育改善活動に意欲的且つ組織的に取り組んでおります。最近は、大学等の優れた教育改善・改革の取組に国が資金提供を行い、これをインセンティブとして全体のレベルアップを図るという施策が盛んに行われていますが、本学部ではこれまでの実績やこれからのに向けた構想力が高く評価され、結果として多くの取組が採択をうけており、東北地方の教員養成系学部の中でも一目おかれる存在といってよいでしょう。本年度は残念ながら該当する成果がなかったのですが、学部教育の更なる充実に向け、

一層気を引き締め、捲土重来を期したいところであります。

続いて研究面ですが、世は評価の時代であり、大学も評価対象であることにおいて例外ではありませんが、そんな状況下、国立大学法人評価委員会による平成16年度以降の研究面の評価においては、多くの教員養成系学部・大学院研究科が「期待される水準にある」との評価に止まるなか、本教育文化学部・教育学研究科は、1ランク上の「期待される水準を上回る」との評定を得ております。全国的にも研究面で胸を張ることができるということでもあります。因に教育面に関しましても、教育の実施体制、教育内容等の評価を総合したとき、研究面ほどではないにせよ、近隣の同種の学部を評定において凌いでいるほか、全国的にも高い位置につけていますので、ご安心下さい。

このようにして、本学部の教員は、職員ともども力を惜しむことなく学部の充実・発展に向け鋭意積極的に取り組んでいるものと自負しておりますが、勿論、これで十全とは考えておりません。特に、保護者の皆様の眼で本学部の教育等をご覧になったときの感想等も気になるところであります。この点、本年度から開始した成績通知(送付)制度も、学生個々の学業の状況を把握していただくと同時に、各地で開催する後援会等の折の様々な意見交換、相談の際の資料としていただきたいという趣旨も込めております。

今回は紙幅の制約上、本職としても割愛せざるをえない情報が多々ありますが、これからは本誌を通じて学部にかかわる有意な情報を継続的に提供させていただき、それを契機に後援会の皆様との間で学部運営に関する相互理解と一層深めていけたらと念じているところです。



ごあいさつ

秋田大学教育文化学部後援会 会長 伊藤 勝

秋田大学教育文化学部後援会会員の皆様、並びに秋田大学の教職員の皆様におかれましては、日ごろから後援会へのご理解・ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。紙面をお借りして甚だ恐縮ではありますが、厚くお礼申し上げます。

この度、秋田大学教育文化学部の関係教職員の皆様のご尽力により、この情報誌の創刊の運びとなりました。後援会といたしましても喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。情報誌を通して後援会の事業として掲げている「卒業生の完全就職の実現」に向けた大学の取組をこれまで以上に知ることができると同時に、学生を取り巻く社会情勢や学生の実際の様子を知ることができることと期待しております。

皆様ご承知の通り、後援会は、全県を7地区に分け、各地区会の理事や総代の皆様のご労苦に支えられて運営しております。毎年7月上旬に総会に代わる総代会を行い、その後それを受けて各地区において地区会を開催しております。その際には、就職委員長や副委員長の先生方が各地区会に出向いてくださり、就職状況についての説明をはじめとし様々な情報をご提供して下さっております。

さて、中央地区会（南秋田郡・男鹿市・潟上市・秋田市・県外）は毎年11月の下旬に開催しておりますが、年々保護者の皆様の参加が増えてきております。主催者側としてはとてもうれしい状況ではありますが、このことは我が子の将来（就職や進学）に対する不安の表れの結果でもあるのではないかと推測しております。実際、近年の急速に進む高齢化や少子化、我が国の経済力の低下等の社会問題は、過去最悪な雇用情勢とか就職氷河期の再来などと言われる就職問題となり、学生たちの就職活動に直結しているようです。今の学生の就職活動は、数十年前に私たち親の年代が就職を決めたころの状況とはあまりにもかけ離れており、親としては為す術もなく子どもに任せて見守ることしかできません。それ故に、大学が教育機

関として学生たちを社会に送り出す責務を背負って行っている様々な取組を頼りとし大きな期待を寄せている次第であります。

毎年の中央地区会においては、教職・公務員・企業のそれぞれに内定した学生や大学院への進学が決まった学生から親を対象として体験談を話していただいております。お話を聞いて、どの学生にも共通していることは、大学生活において先生方のご指導や友達とのかかわりにより自己を磨いて、自己を知り、あるいは、就職情報室やセミナー等の大学の施設や事業を有効に活用し、自分に必要な情報を積極的に収集し、夢を現実のものとするために猛烈に努力をしたということです。そして、その努力を継続させることのできたエネルギー源として、自分はどのようにしてそこに就職したいのか、あるいは進学したいのかという強い思いをもっていることです。そこには、厳しい現状に怯え疎んでいるのではなく、客観的に自分を見つめ、毅然として自己実現のために立ち向かった自信に満ち溢れた姿を見ることができます。もちろん、将来幾多の困難に出会うかもしれませんが、その都度より良い方向を探り、解決に向かって進んでいくであろうたのもしさを感じます。

後援会といたしましては、一人でも多くの学生が、中央地区会で体験談を話してくれた学生たちのように有意義な大学生活を送ってくれるように、そして学生たち、親たちが、秋田大学教育文化学部に入ってよかったということを実感できるように、これまでにも増して大学との連携を大切にして、大学の取組に惜しみない協力をしていきたいと思っております。

会員の皆様、大学教職員の皆様には、これまで同様のご理解・ご支援を重ねてお願いし、あいさつに代えさせていただきます。

就職情報室とともに

就職委員長 遠藤 敏明

ご存知のように、厚生労働省と文部科学省がまとめた昨年12月1日現在における大学生の就職内定率は、73.1%で前年同期を7.4ポイント下回っています。サブプライムショック以来、2年連続で前年同期を下回り、1996年の調査開始以来、過去最低で、下げ幅も最大でありました。報道各社は、依然として就職状況が厳しいことが浮き彫りになったと記しています。これは理系も文系も合わせた内定率の平均なので単純な比較はできませんが、本学では、12月末時点で、内定率64.8%、前年比-8.9ポイントでした。内定率という数字にしてしまいますと、この傾向は、やはり経済状況の反映なのかと思われるかもしれません。

この数年は、いわゆる2007年問題と呼ばれる団塊世代の大量退職との関連で求人が非常に伸びておりました。全国の求人総数は昨年比では、大きく減少して見えますが、今年の新卒求人倍率は1.62で、2006年卒並みとなっています。また統計上の求人企業数は減っていませんし、企業の求人意欲は落ちていないと言われています。(例えば本学が12月5日に開催したジョブフェアでは、昨年よりも20社程度多い151社に参加いただきました。)

就職情報室がまとめている企業求人票数を見ると、2005年度990件、2006年度1129件、2007年度2417件、2008年度2568件となっています。2007年度に大幅な増があり、2008年度も伸び続けていました。その割合は、平成1999年度と比較すると約4.5倍の求人数になっています。2009年度については3月末の集計を待たなくてはなりません。2006年度と2007年度の間あたりというところになりそうです。しかし、県内企業に限ってみると、首都圏を含む全体求人数では伸びていた平成2008年度にして、2007年度の半分以下です。ほぼ2004年度並にまで落ち込んでいます。以上のように確かに県内は厳しい状態であると言えますが、首都圏まで含めば、かなりの求人があることもわかります。

さて、肝心の教育文化学部の就職内定者の状況

は、12月末の統計では、昨年と比較して教員が23名減、企業が12名減です。公務員は5名増加という明るいニュースもあります。やはり教職合格率の低下が問題です。ここでも県内と県外の状況は大きな隔たりがあります。秋田県は、教員採用の競争率では全国5位に位置づけられるほど難関になっています。しかし、全国の公立学校教員採用はほぼすべての校種において増加しているのをご存知でしょうか。例えば、昨年比で小学校は0.5%増、中学校3.8%増、高等学校13.6%増です。平成13年度に増加に転じて以降、平成21年まで増加が続いています。幸い、本学では、千葉県や神奈川県など、長年にわたって先輩が多数おられます。元気で生き生きとした彼ら卒業生たちと会う度に、首都圏を積極的に受けてもらいたいと感じます。昨年8月のオープンキャンパスの日には、首都圏の企業や教員として活躍する卒業生の話を聞く会を開催し、学生や保護者の皆様に、ご参加いただけますよう後援会を通してお願い致しました。

就職支援では今、就職情報室、就職委員会委員が一丸となって企業希望で進路が決定していない学生のフォローなどに全力をあげています。メールで就職情報を伝えたり、携帯で相談したり、きめ細かな支援を心がけています。就職情報室には、県外はもちろん県内企業からも今年卒業学生への求人が集まっています。また、これからはぜひとも参加して欲しい情報交換会もあります。真剣に進路を選び就活するならば、「秋大生に就職難はない」と私たちは考えています。

今年度は全般的に、内定時期が遅くなる、採用ジャッジが遅れているという状況が見受けられますが、原因は、不況ばかりでなく、不適応人材を減らすという目的で、企業が選択基準を見直し始めたということにもあります。背景には、早期離職者の増加、メンタル不全者の増加などがあります。そこで企業では能力要件フレームを導入し、採用に際して譲れない要件をしぼり、また企業と採用者のマッチングの可視化や、PSIなどを導入しました。さらに多くの企業が筆記試験を導入し

たり個別面接の重視をしたりしています。採用担当者とのお話では、「リストラしてでも新卒採用確保」という意見が普通に聞かれます。企業は新卒学生を採りたいが慎重になっており、量より質、厳選採用傾向が強まっています。こういう状況下で、内定をもらうためにはどうしたら良いのか。専門家の意見は以下の三点に集約されます。

- 1 自己分析
- 2 社会、業界、企業分析
- 3 精神力とコミュニケーション能力の育成

特に3では、学生が20年あまりをどのように育ってきたかを見るのだと採用担当者は語ります。

大学の役割や期待される要素にも変容が見られます。就職は学業と別のことと言われていましたが、学業の結果であるという考え方も一般的になりました。社会人基礎力という視点が大学のなかで重視されるようになってきました。本学でも自己分析や企業分析を行う方策を学ぶキャリア形成教育が初年次から始められます。教育文化学部や全学で、キャリア形成入門の授業が開設されています。

学生の就職支援のためには、これまで以上に大

学の名前が首都圏で認知される必要もあります。教育文化学部では企業就職担当者向けパンフレットを池村学部長の特別予算で作成し、これを使用しながら情報交換を積極的に行ない、企業からも好評を得ています。教育文化学部につき、全学でも就職担当者向けパンフレットを作成しました。

また先に述べましたジョブフェアという企業採用者と学生の情報交換の場を設けています。12月のものは過去最大の企業数になりましたし、例年の5月に加えて、新規に10月にも開催し多数の参加者を得ました。この機会に採用が決まった学生もおりました。

就職情報室では、学生達の悩み相談に応じながら、個々の学生へのきめ細かな対応や支援を行っています。自分が活躍できる職場はどこか、自ら気づき考える場を形成したいと考えております。就職情報室は、後援会のご支援のもとで運営されております。これまで通り、ご支援よろしくお願いいたします。

最後に、就活は学生にとって、これまでの生活と異なり心身ともにハードな局面が生じます。保護者の皆様には、この時期に、あたたかくご支援をいただければと思います。

就 職 内 定 状 況 (2月末現在)

学部・課程等名	卒業予定者数	進学予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他 小計	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	110	8	102	33	69	57	17	40	55.9	51.5	58.0	0
	地域科学課程	69	2	65	23	42	42	17	25	64.6	73.9	59.5	2
	国語言語文化課程	72	3	66	12	54	56	10	46	84.8	83.3	85.2	3
	人間環境課程	65	6	57	32	25	44	24	20	77.2	75.0	80.0	2
	小計	316	19	290	100	190	199	68	131	68.6	68.0	68.9	7
教育学研究科	30	0	25	13	12	17	10	7	68.0	76.9	58.3	5	
合計	346	19	315	113	202	216	78	138	68.6	69.0	68.3	12	

就職情報室インタビュー

教育文化学部3号館の2階には「就職情報室」があります。たくさんの学生が入り出していますが、ここでは様々な就職指導が行なわれています。人間環境課程の玉山さんにインタビューしてもらいました。答えていただいたのは、就職情報室に勤務する村上さんと信太さんです。

玉山「よろしくお願ひします。就職情報室は、私たちにどんなことをしていただける場所でしょうか？」

信太「はい。就職情報室には企業関係、公務員関係、教職関係と様々な資料がそろっています。パソコンも4台ありますので、それらを利用して求人情報や、受験内容等を見てもらっています。説明や相談は私たち二人が応じています。」

玉山「とても便利ですね。では、ここで相談できる時間を教えてください」

信太「開室時間は10時から12時、そして1時から5時（曜日によって4時）です。月曜日から金曜日まで自由に利用できます。長期休みも開いていますので、みなさんにどんどん利用していただきたいと思います」

玉山「私もぜひ春休みに来てみます。学生からはどんな相談が多いでしょうか？」

村上「主に進路に関する相談ですね。就職のための勉強方法や試験内容、面接時の身だしなみや質問内容、時には封筒の書き方まで質問を受けることがあります。分かる範囲内であらゆる質問にお答えしています。たまには、人生相談を受けることもありますね、御両親や先生にいいにくいことでも私たちには話してくれることがあります」

玉山「では、就職を控えた学生のみなさんに一言お願いします。」

村上「社会に出るにあたって意識を変えてもらいたいと思います。それと学生時代に得た知識や見識に加えて常識と言うマナーを身につけて就職活動に臨んでいただきたい、そして人生について考えてもらいたいなと思っています」

玉山「ありがとうございます」

信太「就職活動を行うにあたって、自分史を振り返ってもらいたいと思います。そうすることによって自分のやりたいことが見えてくると思います。夢や目標を持って進路を決めて欲しいと思います。それから就職情報室は、企業の人事の方、内定をもらった先輩、教員・公務員を目指し頑張っている先輩、合格した先輩、卒業生、色んな方が来室します。きっと有益な情報が得られると思いますので、入学時から気軽に来室してください。」

玉山「私ももっと早くからここに来てれば良かったと思います。今後もよろしくお願ひします。インタビューどうもありがとうございました」

インタビューは終始笑い声が入る、和やかな雰囲気で行なわれていました。就職情報室は、このようにとても良い雰囲気の中で就職相談ができる場所です。積極的にご利用いただければ、お子さんの就職活動はきっとうまく行くことでしょう。なお、就職情報室は後援会から予算をいただき運営されています（どうもありがとうございます）ので、ぜひご利用ください。



秋田大学ゲーミング・シミュレーション研究会

秋田大学ゲーミング・シミュレーション研究会は、「対象理解と問題解決の手法であるゲーミング・シミュレーションを主軸とした研究と実践を目的」として、2009年4月に設立しました。当研究会は、2006（平成18）年度から2008（平成20）年度まで、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された秋田大学の「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築－社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト－」の成果を継承・発展させる組織として創設されました。

「ゲーミング・シミュレーション」とは、ゲームやシミュレーション、ロールプレイングなどを関心対象を理解したり、問題を解決したりするために用いる手法です。この手法を講義や座学に片よりがちな大学の授業改革に活用し、知識と行為の統一的な学習を推進し、真に社会で活かせる社会的実践力のある学生を育成しようとしています。学生同士また教員も含めて体験的にかつ協同的な学びの場において、仲間と共に学ぶことの意味を認識し、他者存在の意義を感じ取っています。

秋田大学では、教育文化学部や教育学研究科を中心にゲーミング・シミュレーション研究並びにその実践が精力的に行われており、その成果は著書・論文や学会発表等で公表しています。

私たちは、今日、幅広い世代に普及しつつあるデジタルゲームの研究も推進しています。

（研究会HP <http://www.akita-university-gaming-simulation.jp/>）



カラオケソフトの学習効果を探る。



研究成果を日本シミュレーション&ゲーミング学会で発表する。



横浜国立大学で「ゲーミング・シミュレーションによる大学の教育改革」について講演する。



秋田大学ゲーミング・シミュレーション研究会設立記念行事の体験セッションで「モノポリー—秋田県版—」を楽しむ。



学校ボランティア体験談

学校教育課程 細川 恵美

学校ボランティア活動は、教職を目指す学生が授業中や放課後、夏休みや冬休みなどに秋田県内の公立学校を訪問し、授業のサポートや子どもの学習状況に合わせた支援を行う活動です。教育実習とは違った角度から子どもたちの様子を見ることができ、実践力を高めるためには良い経験になります。

私は大学1年生のときに学校ボランティアに登録し、小学校2校と高等学校1校を訪問しました。小学校では主に低学年と高学年を担当し、土曜日の自学時間と夏休みの学習支援を、また、高等学校では現職の先生と一緒に数学の補習の学習支援を行いました。

学校ボランティアでは、一人ひとりの子どもの学習状況に合わせた支援を行います。教育実習で授業をする際にも机間指導などで個別の支援を行うことはありますが、学校ボランティアではより時間をかけて一人ひとりの子どもに合った支援を行うことができます。特に、小学校では子どもたちがそれぞれ学習したい教材を持ってきているため、学習している内容が子どもによって違います。学習の進みが速く、次々に新しい問題を解いていく子ども、苦手な問題をつまずきながらもじっくりと解いていく子どもなど様々です。私は一人ひとりの子どもと関わりたいと考えていましたが、何度も「先生、先生！」と呼ぶ子どもがいると、やはりその子どもへの支援が多くなってしまい、他の子どもたちへの支援がなかなかできませんでした。この経験から、子どもたち一人ひとりと関わることの難しさを感じ、またどのように工夫をすれば他の子どもたちとも関わるか考える必要がありました。一人ひとりの子どもとじっくり向き合う姿勢をもつことで、それぞれの子どもに合わせた関わり方が見えてくるのではないかと思います。

学校ボランティアでは、校種や年齢の異なる様々な子どもや先生方と接することができます。これからも積極的に学校ボランティア活動に参加し、実践力を高めていきたいと思っています。

秋田大学鍵盤の会p.f.

秋田大学鍵盤の会p.f. (ピアノフォルテと読みます) は、創立7年目のサークルで2009年終了時点で部員は52人います。

部室にはグランドピアノ2台と、アップライトピアノ1台があります。ピアノの練習は、授業の無い時間や放課後、休日でもできます。部会は毎週火曜日の1回です。



このサークルのメインイベントとして、1年に2回、春と冬に秋田駅西口から近いアトリオンで演奏会を行っています。700人収容できる音楽ホールで、学生や一般の方々を招いて私たちの演奏を聴いてもらう、結構本格的な演奏会です。演奏したい人は演奏者として、裏方をやりたい人はスタッフとして、一生懸命準備をします。演奏曲はクラシックやポップスなど様々なジャンルを演奏していて、連弾やピアノを2台使ったの演奏もしています。前はGReeeeNの「キセキ」、ショパンの「革命のエチュード」、リストの「ラ・カンパネラ」などを演奏しました。もちろんみんな自分の好きな曲を弾いています。演奏しないスタッフは、演奏会当日に裏方として活躍し、一緒に盛り上げていきます。2009年12月19日の定期演奏会では15回目をむかえました。

この他にも様々なイベントを行っています。年によって内容は異なってきますが、2008年度は花見・スポーツ大会などピアノと関係ない面でのイベントもたくさんありました(笑)。部員同士の交流を深める目的として、旅行にも行っています。2008年度は1泊2日で田沢湖や角館を観光しました。

これからも、部員みんな楽しく、ピアノをたくさん弾いていきたいと思っています。サークルのホームページもありますので、そちらもご覧になって頂けると幸いです。

Piano Forte <http://pianoforte.orz.ne.jp/>



出前授業で相互に学ぶ

音楽教育講座 武内恵美子

秋田大学教育文化学部では「チャレンジ推進事業」として、依頼のあった秋田県内の小中学校に教員を派遣して授業を行う、出前授業を行っています。

私は今年度中学校3校から申込を受け、10月から12月にかけて授業を行いました。先生の授業方針が異なるため、依頼される内容も異なります。1件目は「西洋音楽と日本音楽の相違と日本音楽の鑑賞ポイント」という内容で行いました。普段聞き慣れている西洋音楽と比較すると、日本音楽はまだまだ学校教育現場では一般的ではなく敷居が高いと思われがちです。違いを理解することで抵抗感を少しでも払拭し鑑賞の手助けとなるように実施しました。

2件目は「三味線と三味線音楽について」という内容で行いました。日本の楽器というと真っ先にあげられる可能性が高い三味線ですが、意外と知らないことが多いのです。楽器としての三味線と、それが使われている歌舞伎を、実際に楽器にふれながら体験してもらいました。

3件目は「能について」という内容で行いました。協和町には立派な能舞台があります。せっかくそばに能舞台があるので、少しでも能に親んでもらいたいという先生の思いから、能に関して、歴史と実際の音楽の構造を、体験を交えて学習してもらいました。

出前授業は、授業を受ける生徒や現場の先生にとって、専門的に学ぶよい体験になると思いますが、出前授業に赴く大学教員にとっても、現場を知るという意味でとてもよい経験となっていると思います。私は学校教育課程に所属していますが、教育学系の教員ではないので、本来あまり現場の生徒と接する機会はありません。どの学校も、学年、人数、生徒の特徴などは全く違いますし、行う授業の内容も異なりますが、中学生の学習や認知レベルを実感できるとてもよい機会となっています。これは大学で授業を行う上でも大変参考になりますし、この制度の有用性を実感しています。来年度以降も依頼があれば可能な限りぜひ実施したいと考えています。



「地理学実験Ⅲ」(2009年度) 感想

地域科学課程 入澤 舞

2009年9月13日から19日に、私は地理学研究室の学生11人と教員1名とで野外調査実習を行った。観光班、食生活班、梶賀班の3つに分かれ、三重県の尾鷲市を調査対象地域とした。この巡検を行うにあたって、4月から調査内容を話し合ったり、資料を収集したり、尾鷲市についての予備調査を行ったりなどの準備をしてきた。

まずスケジュールの紹介をしたい。私たちは13日に秋田を発ち、14日に清岸渡寺・熊野那智大社・那智の滝を見学し、15日から18日にかけて野外調査実習を行い、19日には伊勢神宮を見学した。秋田から尾鷲市に至るまでの交通手段は電車であり、団体行動であった。電車はミカン畑やいくつもの海のそばを通り、そういった初めて見る景色は目を楽しませてくれた。14日に見学で訪れた熊野那智大社は高台にあるため、そこからの眺めは絶景であった。機会があったらゆっくりと見学したいと思った。そして最終日に見学をした伊勢神宮は広大な敷地に驚いた。観光客も多く、様々な出店が立ち並び、活気に溢れていた。

次に4日間にわたって行われた野外調査実習についての感想を述べたい。私は食生活班で、この班は尾鷲市の郷土料理や、正月の雑煮に入れる餅の形や具材を調査した。尾鷲市では様々なお寿司が郷土料理として親しまれている。その例としてさんま寿司や押し寿司、混ぜ寿司やめはり寿司などがある。そして正月の雑煮についてだが、地域によって四角い餅を入れるところ、丸い餅を入れるところがある。尾鷲市においてはどちらの形が多いのか、またどのような具を入れて食べるのかなどを併せて調査した。対象地域を尾鷲市の市街地、九鬼、大曾根浦、三木里、賀田の5つに絞り、聞き取り調査を行った。その結果、70件のデータを集めることができ、現在は集計中、考察成果を「秋大地理」に掲載する。

全体を通して日程はややハードであったが、見知らぬ土地での野外調査という良い経験ができてよかったと思う。今年経験したことを来年に活かしたい。



実地講師による郷土芸能の授業

音楽教育講座 桂 博章

郷土芸能の保存会の会員を講師として招いて、教育文化学部の学生に授業で指導してもらったことが何度かある。平成18、19年度には総合演習の分科会で秋田県羽後町の「西馬音内盆踊り」を、平成20年度には大仙市中仙町の「ドンパン踊り」を扱い、それぞれ現地の保存会の踊り手を講師として招いて指導を受けた。その他にも附属中学校の音楽科教員の協力を得て、中学校の公開研究会の研究授業で「西馬音内盆踊り」を取り上げてもらい、保存会会員に指導を受けたこともある。

小・中学校で郷土芸能を取り上げる場合、指導者の実技経験の不足から視聴覚資料を通した指導が中心になり勝ちだが、芸能の担い手を実地講師として招いて指導を受けることで、民俗芸能に対する生徒や学生の意識は大きく変わるようである。附属中学校の音楽科教員には、保存会会員により指導を受けたクラスの外に、「囃子のみを指導するクラス」と「映像資料による指導するクラス」を設けて実験授業をしてもらい、実地講師から踊りと囃子の指導を受けたクラスの学習効果を比較・調査したが、実地講師から踊りの指導を受けたクラスでは、芸能や授業を肯定的に受容する態度が最も形成されており、また学部の総合演習の分科会では、全体会での発表に向けて受講生が授業時間外にも集まって張り切って練習をしていた。郷土芸能の指導においては芸能を丸ごと体験することが重要で、そのためには地域の芸能保存会と連携し、芸能の担い手から直接指導を受けることが有効であると考えている。

少子化や過疎化により、秋田県では多くの民俗芸能の伝承が危ぶまれているが、担い手を確保するために、これまで大人、あるいは男性により担われてきた芸能に、女性や子どもが加わるようになってきている。長く伝承されてきた民俗芸能を次の世代に残すためには、地域の保存会と教育機関が連携し、地域の行事に子どもも組み入れていくことが必要であり、その方法を現在、模索しているところである。



学部の授業で「西馬音内盆踊り」の衣装を身に着けた大学生
附属中学校での公開研究の研究授業より

トピックス

オープンキャンパスを開催しました。

昨年8月8日にオープンキャンパスを開催しました。午前は学部全体の説明会を開催し、午後は各課程・選修の説明会や模擬授業等の企画を行いました。全体説明会には高校生や保護者計740名が訪れ、現役大学生の語る大学での勉学や学生生活について熱心に耳を傾けていました。

〈企画一覧〉

学校教育課程

◎教科教育実践選修

- ・社会科研究室の授業づくり－受験社会科だけでは社会は変えられない－
- ・利率のことについて
- ・音とリズムと音楽について
- ・体育の先生になるには－保健体育科教育学入門

◎障害児教育選修

私たちの選修，とっておきの仲間たち

◎発達科学選修

発達科学選修ツアー～発達科学の先輩と話そう～

地域科学課程

地域科学を知ろう (ポスター発表)

地域科学を体験しよう (模擬授業)

国際言語文化課程

国際言語文化課程で学ぼう・「国際」一周ツアー
人間環境課程

◎自然環境課程

- ・動物の体のつくりを調べてみよう
- ・体験！化学学生実験－大学での化学教育プログラムから－
- ・キッチン地球科学入門：チョコレートプリンで探る溶岩の流下過程
- ・流れの可視化：前線・竜巻・カルマン渦の実験
- ・4Dシアターで見る宇宙，天文台見学

◎環境応用選修

- ・アザラシ型セラピーロボット“パロ”と学ぶ環境技術 ～抗菌・光 そして、サイエンステクノロジー～
- ・数学のプロムナード

新天体望遠鏡ファーストライト・セレモニーを開催しました。

教育文化学部天文台に新しい天体望遠鏡が導

入されたことを記念し、9月24日に新天体望遠鏡ファーストライト・セレモニーを開催しました。セレモニーでは、関係者と新天体望遠鏡の命名者である秋田市内の小学1年生の藤原君とともにテープカットを行いました。新天体望遠鏡の愛称は、「この新天体望遠鏡でたくさんの星を見て、多くのことを学びたい」という願いを込めた「ミルエル」に決定しました。

天文台では、毎月一般市民の方向けに天文講座や夜間天体観察会を行っています。また、施設利用の申込みも随時受け付けていますので、ぜひ新天体望遠鏡をご利用ください。

詳しくは秋田大学教育文化学部天文台ホームページ (<http://www.ipc.akita-u.ac.jp/~narita/au-at/index-c.html>) をご覧ください。

出張キャンパスin八峰町を開催しました。

2月20日に八峰町のあきた白神体験センターにおいて出張キャンパスを開催しました。阿部昇教授の講演「秋田県三年連続『学力トップクラス』の秘密」と、上田晴彦准教授の子ども科学教室「オリジナル星座・望遠鏡を作ろう！」が開催され、多くの町民の方が参加しました。

秋田県総合教育センターとの連携に関するフォーラム－研修員による学部・研究科科目の履修をめぐる－を開催しました。

教育文化学部と秋田県教育委員会は昨年3月に、教員の資質向上を目的として、秋田県総合教育センター研修員が教育文化学部や大学院教育学研究科の授業科目を履修することを認める協定を締結しました。平成21年度は26名の研修員の方が研究科37科目、学部49科目の計86科目を履修しました。その経験を振り返る場として、2月19日に秋田県総合教育センターとの連携に関するフォーラム－研修員による学部・研究科科目の履修をめぐる－を開催しました。

フォーラムでは、第一部で4名の研修員の方から研究発表があり、第二部では「学部・研究科科目の履修に関する成果と課題」と題してパネルディスカッションが行われました。研修員の方からは、「大学生や大学院生との交流から初心に立ち返ることができた」「基礎的な知識，歴史，最新の研究動向等がわかった」等の感想があり、大学教員からも「学生とは違った意見が出されて、授業が活性化した」等の意見聞かれ、この取り組みの成果が確認されました。

お知らせ

《平成22年度 学生定期健康診断について》

下記日程のとおり実施しますので、忘れずに受検するようにしてください。

月日	対象学生	受付時間	実施場所・検査項目
4/8 (木)	4年 院生	男 13:30~ 14:30	★保健管理センター 胸部X線撮影, 内科診察 血压測定 (自動血压計) 耳鼻科 聴力検査 (新入生のみ) 検尿 (翌朝早朝尿)
		女 14:30~ 16:00	
4/15 (木)	1年 新編入生	男 13:30~ 14:00	★学生会館 (クレール) 〈1階〉身体測定 (身長, 体重) 〈2階〉眼科 視力測定, 眼科診察
		女 14:00~ 16:00	
5/10 (月)	3年	男 13:30~ 14:00	★保健管理センター 身体測定 (身長, 体重) 血压測定 (自動血压計) 内科 (血压判定), 尿検査 (翌朝早朝尿)
		女 14:00~ 16:00	
5/11 (火)	2年	男 13:30~ 14:00	★保健管理センター 身体測定 (身長, 体重) 血压測定 (自動血压計) 内科 (血压判定), 尿検査 (翌朝早朝尿)
		女 14:00~ 16:00	

【注意】

当日都合の悪い場合は、他の健診日に受けてください。

【持ち物】

ボタン・金具のついていないTシャツ, メガネ・コンタクト

【健康診断証明書】

◎未受検の学生には、健康診断証明書の発行ができませんので注意してください。(就職活動, 介護等体験, 運動部の大会参加等には、必ず必要になります。)

◎健康診断証明書が5月中に必要な方は、学年に関わらず、4月中に受けてください。

—大学・学部関係行事予定—

(平成22年 3月~)

3月22日	秋田大学卒業式
4月2日	春季休業終了
4月5日	在来生ガイダンス
4月6日	入学式
4月7日	新入生ガイダンス
4月8日	授業開始
6月1日	創立記念日
8月5日	夏季休業開始
9月30日	夏季休業終了・前期終了
10月1日	後期開始
12月26日	冬季休業開始
1月8日	冬季休業終了

- 1月15日 センター試験準備のため臨時休業 (1月16日まで)
- 1月31日 卒業研究提出確認締切
- 2月21日 春季休業開始
- 3月23日 卒業式
- 3月31日 後期終了

愛称募集

本情報誌が学生, 保護者の方々, 地域の方々に広く親しまれるよう愛称を募集します。多くの方のご応募お待ちしております。

☆応募資格

どなたでも応募できます。

☆応募方法

下記についてメールかFAXにて教育文化学部総務担当までお送りください。電子メールにて応募の際は、タイトルを「情報誌愛称」としてください。

①氏名, ②住所, ③愛称, ④その愛称にした理由

☆応募受付締切

5月31日まで

☆選考方法

情報誌編集委員会で選考し、採用された方には図書券5,000円分を贈呈します。

☆結果発表

次号誌面にて結果をお知らせします。

☆応募に関する注意

- ・未発表のものに限ります。
- ・漢字を含む場合はふりがなをつけてください。
- ・お一人様何点でもご応募いただけます。

☆ご応募先及びお問い合わせ先

秋田大学教育文化学部総務担当

TEL: 018-889-2509

FAX: 018-833-3049

E-mail: kyosou@jim.u.akita-u.ac.jp

編集担当より一言

昨年3月に、試行版「後援会 お知らせ」を皆様にお届けしてから、今回の情報誌創刊に至るまでちょうど1年の月日がたっていました。創刊号ということで、掲載する情報の選択・収集や編集に時間がかかってしまったためです。皆様へのお届けが遅くなりまして誠に申し訳ありません。今後は、教育文化学部の教育・研究についてご理解を深めていただけるよう誌面の充実に努めて参ります。本情報誌に対するご意見・ご感想がありましたら、ご遠慮なくお知らせいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 情報誌 (仮題)

創刊号

平成22年 3月 1日 発行

秋田大学教育文化学部

〒010-8502 秋田市手形学園町 1 の 1

ホームページ <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

平成22年 3月 1日 創刊